

那須塩原・リンツ

文化施設がSDGsにチャレンジ



クンストハウス・ウィーン © Paul Bauer

オーストリアで資源の使い方を考え直し、SDGsに取り組んでいる代表的な文化施設は、フンデルトヴァッサー美術館のクンストハウス・ウィーンです。芸術家・建築家のフリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサーは、人間と自然の関係を表した作品や自然と調和した建築で知られ、環境保全の分野でも活躍しました。この施設では、展示品の他に館内の日々の業務でも、新しい製品を買う時に3Rを考えるなど持続可能な取り組みをしています。2018年には、オーストリアの博物館で初のオーストリア環境ラベルを取得しました。2021年のICOM Austria(国際博物館会議のオーストリア国内委員会)の事業「17×17」では、17館の博物館がSDGs 17のゴールに取り組ましました。展示やワークショップなどを通して、来場

者

者に持続可能性について考えさせ、新しいアイデアを伝えました。その事業に参加したリンツ市の博物館アルス・エレクトロニカ・センターは「There is no Planet B (第2の地球はない)」をテーマに、人間の行動が自然に与える影響について見せたり、食やプラスチック業界での責任のある消費や生産のポイントなどに関するガイドツアーや講演会を開催しました。例えば、「生命維持システム」という作品では、麦を室内で育てる



「生命維持システム」 © Ars Electronica-Robert Bauernhansl

ために必要な水や日光の量を量って記録し、生態系の実態を知ることが出来ます。子供向けには、小さいソーラーパネルを使って虫型ロボットを作るワークショップを行いました。今年は、ウィーンの10館の博物館が当事業に参加し、SDGsから2つずつゴールを選び取り組んでいます。



SDGs コーナー：ノイジードラー湖



ノイジードラー湖 © Jakob Hatun CC BY-SA 4.0

ノイジードラー湖は、オーストリアとハンガリーの国境にまたがり、文化的景観としてユネスコの世界遺産に登録されている湖です。水深が浅いステップ湖であり、乾燥や雨の量によって水位が変化し、過去には干上がったこともあります。温暖化やアスファルトなどの不浸透面の使用、農業での地下水の使用などによって、今年の夏には、水位が約60年間で最も低くなりました。水温が上がることで、魚が死んでしまい、漁師がその魚を処分する作業が必要となっています。湖が涸れ、生態系のほか、観光や農業の分野でも問題となっています。そのため、6月にオーストリア・ブルゲンラント州知事とハンガリーの外務大臣が、気候やエネルギーに関する国境を越える協力についての協定書に調印しました。項目の1つに、ノイジードラー湖周辺の水位を安定させることと、生態系を保護することとあり、そのためにハンガリーのモソニ・ドゥナ川からノイジードラー湖までの用水路の設置などの対策を検討しているそうです。

那須塩原・リンツ

オーストリア・リンツの中学生との交流は2005年から始まりました。相互派遣事業では、これまでに那須塩原市からは約500人、リンツからは約150人がお互いの国を訪ねてホームステイをしました。

あの人：山本幸子校長先生



「言葉や文化の違いを乗り越えて人とつながり合う力」

国際交流の経験について：

12年間的那須塩原市教育委員会勤務時代、オーストリアリンツ市にあるLISA校との海外交流事業を担当しました。毎年中学生を連れてリンツ市を訪ねていましたが、それが本市でも留学生を受け入れる相互交流に発展し、やがてリンツ市との姉妹都市締結に至った際は、感慨深い思いがしました。と言うのも、事業開始当初に「英語が話せない日本人家庭に行かせることはとても心配だ。」と交流を断られたことがあったからです。しかし、「来ればきっとその良さが分かるから。」という言葉信じて本市を訪れ、その「おもてなし」文化に触れた彼らは、「日本は言葉にできないほどすばらしい。世界で一番だ。」と言ってくれました。

プロフィール

名字：山本（やまもと）

名前：幸子（さちこ）

出身：那須塩原市

居所：那須塩原市

職業：関谷小学校

校長先生

モットー：失敗を恐れずに
最善を尽くす

その中で特に印象深い思い出について：

心に残っているのは、別れの朝に涙を流しながら抱き合う子供たちの姿や、「これは一生の宝。言葉は分からなかったけどいい子だったよ。」と、受け入れた子と撮った写真を



オーストリア中学生海外派遣研修事業

抱きしめた日本人のおばあちゃんの笑顔です。ほんの数日間であっても共に暮らした経験は、全ての人の心に出逢いへの感謝と、繋がり合えた喜びを残してくれます。2011年の東日本大震災の際には、LISAの保護者や先生方から「那須塩原の子供たちを何年でも預かるから、リンツへよこしなさい。」というメッセージと支援物資がたくさん届きました。その優しさにどれだけ励まされたことでしょう。

国際交流の「これから」について：

関谷小に赴任してからは、ゴルフ町の小学校とのオンライン交流を、継続的に行っています。双方の子供たちは毎回瞳を輝かせてお互いの言葉に聞き入り、驚いたり笑い合ったりしながら友情を深めているようです。英語力はまだまだ十分とは言えませんが、言葉以上に大切なことがあることを彼らは理解し始めています。それはお互いを尊重し、理解し合おうと努力することです。グローバル社会を生きる子供たちには、言葉や文化の違いを乗り越えて、人とつながり合う力が強く求められています。これからも様々な交流活動を通して、本校の子供たちを広い世界と出会わせたいと思っています。



エルヴィン・モーザ校とのオンライン交流会（ホストタウンレガシー事業として実施）

これまでの那須塩原市のホストタウン交流はこちらです。



那須塩原・リンツ

生き生きとしたホストタウン交流

2022年8月23日(火)ホストタウンフェスティバル～GOTO2025～

2020年東京オリンピック・パラリンピックの「レガシー」として相手国との交流を続けているホストタウンが東京に集まり、これまでやこれからの交流事業、プロジェクトについての発表と交流を行いました。2025年に大阪・関西で開催される万国博覧会を、相手国との交流を更に深めるきっかけとして、万博に向けてできることを話し合いました。



那須塩原市の活動写真展

那須塩原市は、オーストリアとのホストタウン交流について発表をしました。また、同席した在日オーストリア大使館のハイスラー全権公使が、リンツ市と那須塩原市の姉妹都市交流は、とても活動的で素敵であるとおっしゃっていました。オース



ハイスラー全権公使による挨拶



那須拓陽高校が発表する様子

トリアは万博でパビリオンを出展する予定です。秋以降、レガシーの交流事業は、学校間のオンライン交流やオーストリアパラ選手と学校のオンライン交流のほか、学校間音楽交流を予定しています。

☆ 那須拓陽高校の創作料理がとちぎ国体デビュー ☆



那須拓陽高校には、これまでオーストリア創作料理に何度も関わっていただきました。今年の創作料理は、とちぎ国体で販売します。

創作料理の出店：

★10/2(日)：戸田調整池



東京の八芳園のシェフが那須拓陽高校の生徒を指導する様子

★10/5(水)：ハウライ倶楽部★10/6(木)：塩原カントリークラブ&地方競馬教養センター★10/7(金)：西那須野カントリー倶楽部&地方競馬教養センター★10/9(日)と10/10(月)：石川スポーツグラウンドくろいそ

～シュニボテとて焼～



塩原のとて焼とオーストリアの名物ヴィナー・シュニッツェル(子牛や豚肉のカツレツ)、ポテトサラダが出会った料理。アスパラ、トマトやレタスが入っていておいしいです。チーズのソースとマッシュポテトに混ぜたマスタードがポイントです。

～那須っ子クグロフ Gugelhupf～

オーストリアのお祖母さんのコーヒータイムが思い浮かぶような家庭料理である焼き菓子「クグロフ」と那須塩原市の自然の恵みが出会ったお菓子。ほうれん草、ブルーベリー、イチゴ3種類を提供します。パッケージには那須塩原市の経木を使い、地元の暖かい気持ちをたくさん込めた、わくわくする焼き菓子です。



リンはケ出展
てでもニュ
います。紹
紹介す。ラ
イルス

